

リソースの連携強化に向けたあきたの男女共同参画連携 会議の開催【秋田県】

個別事業費	715 千円
交付金額	327 千円

地域の実情と課題

- 本県の総人口は909,501人(令和6年1月1日現在)で、この1年間で16,432人(1.77%)減少するなど、人口減少や少子高齢化が急速に進行している。
- 女性の有業率は全国平均を上回り、育児をしている女性の有業率は全国上位にあるものの、管理的職業従事者に占める女性の割合は低く、政策・方針決定過程への女性の参画は遅れている状況にある。

事業の特徴

- 令和4年度に整備した「秋田県女性人材データバンク」の登録者や、地域における男女共同参画及び女性活躍推進を担う「あきたF・F推進員」など県内で活躍する女性等(リソース)と、市町村及び男女共同参画センター職員を対象に講座や分科会を通じた意見交換等を行い、相互連携の仕組みを整え、その活動を促進する。

事業の効果

- 女性人材データバンク登録者やあきたF・F推進員等を対象とした連携会議を開催し、アンケートでは、「様々な取組事例について情報共有することができ、有意義な時間になった」など、ジェンダー平等や女性活躍について理解が進んだほか、意見交換により参加者間のつながりを強めることができた。
- 県や市町村が主催する事業において、リソースと連携し実施することで、地域における課題解決に向け取り組むことができた。

目的・目標

- 県内民間事業所の管理職(課長相当職以上)に占める女性の割合については、令和7年度目標23.0%に対し、令和6年9月末時点で23.1%。

連携団体

【あきた女性の活躍推進会議】

- 経済団体
 - ・秋田県商工会議所連合会
 - ・秋田県商工会連合会
 - ・秋田県中小企業団体中央会
 - ・秋田県経営者協会
 - ・秋田経済同友会
- 農業団体
 - ・秋田県農業協同組合中央会

- 秋田県中央男女共同参画センター指定管理者(NPO法人いきいきFネット秋田)
- 労働団体
 - 日本労働組合総連合会秋田県連合会
- 行政
 - 秋田労働局、秋田県、秋田県市長会、秋田県町村会
- ※オブザーバー
 - 金融機関、企業支援機関等

今後の課題

- 男女共同参画センターを拠点とし、女性人材データバンク登録者やあきたF・F推進員等の地域におけるリソースの連携強化を図るために、センターが実施する研修等の企画・運営への参加や相互協力が図れる体制づくりを、より一層進める必要がある。
- 県や市町村だけではなく、企業等が主体となって実施する女性活躍推進に向けた取組に対しても、リソースを活用した支援を広めていく必要がある。

事業の概要

あきたの男女共同参画連携会議の開催

女性人材データベース登録者やあきたF・F推進員、男女共同参画センター職員など県内で活躍する女性等を対象に講演や分科会を通じた意見交換等により相互連携の仕組みを整え、その活動を促進することを目的として、取組事例発表、基調講演や分科会を開催した。

〔開催日〕 令和6年10月10日(木)

〔開催場所〕 秋田県総合生活文化会館「アトリオン」(秋田市)

〔開催形態〕 対面

〔開催規模〕 61名

〔開催内容〕 ・取組事例発表

発表者 大館市担当者

あきたF・F推進員 加賀谷 七重 氏

・分科会

①あきたで生きる若者の声

秋田で暮らす若者が感じていることについて語ってもらい、交流を深めることで、誰もが自分らしく生きることができる地域づくりについて考えることを目的とする。

②ジェンダー教育～あなたらしく生きる～

ジェンダーに関する中高生の意識調査の結果を共有し、男女の格差や機会の平等について考えることを目的とする。

③なぜ女性リーダーが増えないのか

様々な意思決定の場への女性の参画を促進するために必要な取組について意見交換を行い、気づきや発見を得られることを目的とする。

・基調講演

「女性の意思決定過程への参画を促進するために」

講師 板東 久美子 氏(日本赤十字社 常任理事)

